

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	近畿大学
設置者名	学校法人近畿大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
法学部	法律学科	夜・通信			174	174	13	
経済学部	経済学科	夜・通信			52	107	13	
	総合経済政策学科	夜・通信		55	64	119	13	
	国際経済学科	夜・通信			24	79	13	
経営学部	経営学科	夜・通信			42	400	13	
	商学科	夜・通信		358	2	360	13	
	会計学科	夜・通信			0	358	13	
	キャリア・マネジメント学科	夜・通信			30	388	13	
理工学部	理学科	夜・通信			93	189	13	
	生命科学科	夜・通信			51	147	13	
	応用化学科	夜・通信			30	126	13	
	機械工学科	夜・通信		96	65	161	13	
	電気電子工学科	夜・通信			79	175	13	
	社会環境工学科	夜・通信			40	136	13	
	情報学科	夜・通信			54	150	13	

建築学部	建築学科	夜・通信		132	132	13	
薬学部	医療薬学科	夜・通信	7.5	72.5	80	19	
	創薬科学科	夜・通信		33	40.5	13	
文芸学部	文学科	夜・通信	190	19	209	13	
	芸術学科	夜・通信		155	345	13	
	文化・歴史学科	夜・通信		12	202	13	
	文化デザイン学科	夜・通信		46	236	13	
総合社会学部	総合社会学科	夜・通信		72	72	13	
国際学部	国際学科	夜・通信		71	71	13	
農学部	農業生産科学科	夜・通信	17	64	81	13	
	水産学科	夜・通信		94	111	13	
	応用生命化学科	夜・通信		48	65	13	
	食品栄養学科	夜・通信		98	115	13	
	環境管理学科	夜・通信		95	112	13	
	生物機能科学科	夜・通信		60	46	13	
医学部	医学科	夜・通信		229.1	229.1	19	
生物理工学部	生物工学科	夜・通信	73	83	156	13	
	遺伝子工学科	夜・通信		61	134	13	
	食品安全工学科	夜・通信		29	102	13	
	生命情報工学科	夜・通信		44	117	13	
	人間環境デザイン工学科	夜・通信		67	140	13	
	医用工学科	夜・通信		70	143	13	
工学部	化学生命工学科	夜・通信	28	6	34	13	
	機械工学科	夜・通信		27	55	13	

	情報学科	夜・通信			35	63	13	
	建築学科	夜・通信			54	82	13	
	電子情報工学科	夜・通信			30	58	13	
	ロボティクス学科	夜・通信			18	46	13	
産業理工学部	生物環境化学科	夜・通信		27	48	75	13	
	電気電子工学科	夜・通信			52	79	13	
	建築・デザイン学科	夜・通信			74	101	13	
	情報学科	夜・通信			44	71	13	
	経営ビジネス学科	夜・通信			54	81	13	
通信教育法学部	法律学科	夜・通信			32	32	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページで公表

<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/educational-info/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	近畿大学
設置者名	学校法人近畿大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kindai.ac.jp/files/about-kindai/overview/organizational-chart/organizational-office04.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	関西電力(株)顧問	4年	企業役員として法人 全体の指導・助言
非常勤	(株)九電工代表取締役社長	4年	企業役員として法人 全体の指導・助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	近畿大学
設置者名	学校法人近畿大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>本学の教育改革推進センターが中心となり、上記内容を含む項目の記載例等、詳細な記載ルールを盛り込んだ「シラバス記入上の留意事項」を作成。各学部の学部長補佐、事務部長を委員とした教育改革推進センター運営委員会（令和元年11月2日）にてこれに基づくシラバス作成の依頼を行うとともに、各学部長宛に文書にて周知している（令和元年11月7日付）。更には学部内でのシラバス点検・監査報告の提出を義務付けている。このような取り組みを経て、授業計画（シラバス）を作成し、本学のホームページ上で公表している。</p> <p>※スケジュールは令和元年度実績</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.kindai.ac.jp/for-students/syllabus/">https://www.kindai.ac.jp/for-students/syllabus/</a>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>前述の「シラバス記入上の留意事項」において、成績評価方法及び基準という項目にて成績評価の考え方をよい記入例・悪い記入例を示しながら、適切な評価方法を記載するよう周知し、学部内における点検・監査項目のひとつとしてチェックを行っている。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価に関しては、学則第 18 条に基づき履修科目の成績評価を点数化し、秀・優・良・可の 4 段階評価で単位認定を行っている。59 点以下の場合は不可となり、単位は認められない。成績評価ではないが、学生自身が学修の全体的な達成度合いを把握するために全学部で GPA を導入し、各学部の履修要項にて公表している。点数化された成績分布と併せ、成績が著しく悪い学生に関しては、面談等の適切な学修支援を行っている。

【GPA の算出方式】 ※小数点第 2 位は四捨五入し、表記は小数点第 1 位とする

$$\frac{\{(履修科目の単位数) \times (履修科目のGP)\}}{\text{総履修登録単位数}}$$

実点	100点 ～90点	89点 ～80点	79点 ～70点	69点 ～60点	59点以下	不受験
成績評価	秀	優	良	可	不可	不受
GP (グレードポイント)	4	3	2	1	0	0

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/educational-info/grade-evaluation/>  
(参考) GPA について：学部別の「履修要項」に記載（新入生に対して入学時に配付）

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学の教育改革推進組織のひとつである学士力強化検討委員会において、卒業の認定方針策定に係るガイドラインを設定し、これを各学部に周知のうえ方針を作成した。作成された方針は同委員会によるチェックを経て、ホームページに公表している。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	近畿大学
設置者名	学校法人近畿大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/</a>
財産目録	<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/</a>
事業報告書	<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/self-inspection/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/self-inspection/</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/evaluation/juaa-h26/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/evaluation/juaa-h26/</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 法学部
教育研究上の目的（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/</a> ）
<p>（概要）</p> <p>本学は、未来志向の「実学教育と人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育理念として掲げてきました。本学部では「実学教育」と「人格の陶冶」の融合をめざしており、「実学」は、必ずしも直接的な有用性を志向するだけでなく、その事柄の意味を学びとることを含みます。法学部の教育研究上の目的として、全学で定めるアドミッション・カリキュラム・ディプロマの法学部法律学科では、法律や政治に関する知識を学ぶだけではなく、複雑化する現代社会において、自ら問題点を見つけ解決策を提案できる“リーガルマインド”の養成を重視しています。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/law/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/law/</a> ）
<p>（概要）</p> <p>ディプロマポリシー（学位授与の方針）</p> <p>法学部は、法治社会が立ち向かう課題を発見・予測し、その要因と構造を調査・分析し、公共と秩序の観点からその解決のための方略・戦略を策定・構築する者として、下に掲げる水準に達したと認められる者に卒業を認定し、学士（法学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 〈認知的水準（知識）〉 人間・社会・自然に関する豊かな教養と政策・法に関する確かな専門知識に基づいて今日ある社会的課題を発見し、客観的に分析・考察できること。</li> <li>2. 〈認知的水準（思考）〉 規律化された法治社会において確固たる法的思考（リーガル・マインド）に立脚した法的・政策的な戦略に基づいて今日の社会的課題を解決できること。</li> <li>3. 〈認知的水準（予測）〉 規律化された法治社会を持続的に維持するために将来の課題を予測するとともに、これを縮減・予防する戦略を策定できること。</li> <li>4. 〈情意的水準（規律）〉 課題を解決するために策定された方略及び戦略を公共・秩序に資するように規律にかなって執行できること。</li> <li>5. 〈情意的水準（協調）〉 自らの言葉を他者に伝えるとともに他者の言葉を理解し、他者と協働して課題に取り組むことができること。</li> <li>6. 〈情意的水準（統制）〉 課題の解決に向けて、法的思考と法的・政策的戦略に基づいて、自己ならびに他者を組織化し統制できること。</li> </ol>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/law/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/law/</a> ）



<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドミッションポリシーとの整合として、高等学校主要教科の知識・素養を有していることが望ましいとしている。</li> <li>・ディプロマポリシーとの整合として、以下の水準に達したと認められる者に学位を授与することとしている。認知的水準（知識・思考・予測）・情意的水準（規律・協調・統制）・技能的水準（国際性）・カリキュラムマップ、カリキュラムツリーとの整合として、各ポリシーで定める上記の水準を木の枝に見立て、各枝の葉として科目を配し、段階的・系統的に履修できるようにしている。</li> <li>・現在のカリキュラム編成との整合として、カリキュラムポリシーのドメインの中で、学生の学びたいニーズや社会の要請に対して柔軟なカリキュラム編成を行っている。</li> </ul>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/law/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/law/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入試制度との整合性として、法学部では全学で実施している一般入試をはじめ、大学入学共通テスト利用入試や、スポーツ推薦入試、帰国生入試まで、多様な入学試験を実施して受け入れているが、どの入試区分においても、アドミッションポリシーに立脚した合否判定基準を設け、適切な資質を有した入学者の受け入れを行っている。</li> <li>・現在受け入れている学生のレベルは、多様な入学試験を実施している経緯から、入学時においては入学者間に若干に学力の差異は見受けられるが、適切な資質の確保・維持・向上に努めている。</li> <li>・高等学校の学習指導要領に準拠して、入試科目の設定や出題範囲を定めるとともに、学習指導要領に定める学力を具備した入学者の獲得に努めている。</li> </ul>

<p>学部等名 経済学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部は経済学科、国際経済学科、総合経済政策学科の3学科体制をとり、専門化・総合化・グローバル化に対応しています。これらの3学科のいずれにも一貫して流れる教育目標は、高い専門性と時代の要請に応える問題発見とその解決能力の修得にあります。この経済学士こそ本学の建学の精神である「実学教育と人格の陶冶」の具体的な姿であり、必ず実社会で役に立つ人材になるはずです。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/economics/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/economics/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>経済学部の使命は、高度な分析力を有し、人間が生きる上での基本となる経済活動と、そこから派生する様々な社会経済現象を徹底する論理を的確に読み解き、現代社会を生き抜く力を持った人材を育成することです。この趣旨のもとに開講された科目を履修して、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、経済学科卒業生には、学士（経済学）、国際経済学科卒業生には、学士（国際経済学）、総合経済政策学科卒業生には、学士（経済政策学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力を以下に示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間・社会・経済に対する幅広い関心と問題意識を持ち続けていること。</li> <li>2. 人間・社会・経済に対する幅広い教養を身につけているのと同時に、自らそれらの教養を拡充していく能力を身につけること。</li> <li>3. 強靱な論理的思考能力と分析力を身につけること。</li> </ol>

4. 高度なコミュニケーション能力を身につけ、さらに自らの考えを的確に表現できること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/economics/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/economics/</a> ）
（概要） 経済学部は、現代経済と関連領域に関する幅広い視野を身につける一方で、深い専門性も同時に修得可能なカリキュラムを設置しています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/economics/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/economics/</a> ）
（概要） 経済学部は、近畿大学建学の精神に則り、高度な分析力を有し、人間が生きる上での基本となる経済活動と、そこから派生する様々な社会経済現象を通底する論理を的確に読み解き、現代社会を生き抜く力を持った人材を育成します。このために、次のような入学者を受入れます。  1. 人間・社会・経済に対する強い関心を持つ人。 2. 日本語・外国語の読解力や論理的思考能力を中心とした基礎学力を有する人。

学部等名 経営学部
教育研究上の目的（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/</a> ）
（概要） 経営学部では、教授内容に関して、単なる座学に止まらず、「学問・実際一如」という実学教育の理念を実践するために、企業等の現場で実績を挙げた方々を専任教員や非常勤講師等として招き、実践的な視座からの講義を行っています。また、企業人による「ビジネス最前線」と題する講演会を随時開催し、さらに、企業活動を自ら体験するためのインターンシップ制度を設けて、理論と実践の融合を図っています。
卒業の認定に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/business/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/business/</a> ）
（概要） 経営学部では、学位授与に至るまでに修得すべき資質・能力は次の通りです。 1. 企業経営に関する知識や情報を活用し、健全かつ効率的な経営管理を実現するための技能を培っていること。 2. ビジネスに関する戦略的な意思決定能力の基礎を形成し、市場における新たな価値を創造できること。 3. 国際的視野のもとで異文化を理解し社会に貢献できる使命感に目覚めていること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/business/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/business/</a> ）
（概要） 経営学部は、学部の教育理念である「ビジネスの中核を担う企画力と実行力をもつ有為な人材を育成する」ことを実現するため、次のようなカリキュラムを設置しています。 <共通教養科目>

<p>社会における人と人の関係性や社会正義について学び、国際社会で活躍できるよう異文化についての相互理解を促しています。さらに、社会生活の基盤となる心身の健康についての正しい理解と活力ある生活を実践できる能力を培い、豊かな人間性を育てています。</p> <p>&lt;外国語科目&gt; グローバル化時代の共通言語とも言える英語科目の授業では、個々の学生の能力に応じた学修を重視した習熟度別クラス編成、多岐にわたる分野の英語科目の開講、受信力・発信力のそれぞれに重点をおいた授業等、きめ細かな授業を展開しています。</p> <p>&lt;専門科目&gt; 1・2年次において、学部共通の基礎科目と情報科目を配置し、各学科の専門科目の応用学修へ繋がる基礎知識の修得と情報技術リテラシーの養成を行っています。これを踏まえて2年次から4年次へかけてより高度な基幹科目を設置し、各学科の特色を反映したコース制やインテンシブ・インタナショナル・プログラム（IIP）を実施しています。さらに、総合科目のゼミナール（演習）では専門知識の実践力を高めています。</p> <p>&lt;自由科目&gt; 教職課程、秘書課程、インターンシップ、その他特設科目を設け、それを自由科目として認定し、他の科目群を補完する教育として効果を高めています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/business/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/business/</a>）</p> <p>（概要） 経営学部は、近畿大学建学の精神に則り、ビジネスの中核を担う企画力と実行力を持つ有為な人材を育成します。このために、次のような人を幅広く受入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の領域に挑戦し、知識や技能をビジネスに活かす高い意欲を持つ人。</li> <li>2. 学びへの努力を惜しまず、社会へ貢献することを自分の喜びとして行動できる人。</li> <li>3. 活躍の場を広く求め、コミュニケーション能力の向上に積極的に取り組む人。</li> </ol> <p>経営学部は一般公募推薦入試において、国語、外国語を入試科目とすることで、日本語・外国語の読解力や論理的な思考力を有する学生を求めています。さらに、一般入試において、国語、外国語に加えて数学または地歴・公民を入試選択科目とすることで、日本語・外国語の読解力や論理的な思考力だけでなく、物事を数学的に捉えて考える能力、社会を理解する基礎的知識と社会の仕組みに対応していくための分析能力を有する学生を求めています。</p>

<p>学部等名 理工学部</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/</a>）</p> <p>（概要） 本学の学則に掲げており、理工学部では、「学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけ、自律的に考え、判断し、課題解決のために行動・チャレンジできる教養豊かで創造性に富む人材を育成する」ことを教育理念・目標にし、ホームページに公開しています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/science-engineering/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/science-engineering/</a>）</p> <p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近畿大学の教育理念にかなう「人に愛され、信頼され、尊敬される」人であるべきことを常に心掛け、自己の向上に努める態度を身につけること。</li> <li>2. 地球的視点で社会における様々な課題に自主的・積極的に対応することができること。</li> <li>3. 専門分野の基礎理論・基礎技術を理解し、体系的に考えることができること。</li> <li>4. 社会に対する使命感と高い倫理観を持って、専門知識と技術を活用することができること。</li> </ol>

<p>5. 幅広い教養と修得した専門知識を活用して課題を発見し、柔軟な発想力のもとに解決できる能力を身につけること。</p> <p>6. 国際化時代に対応できる言語運用能力を身につけること。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：  <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/science-engineering/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/science-engineering/</a>）</p>
<p>（概要）</p> <p>理工学部では、「創造性豊かな人材」を育成するためには「学ぶ意欲、学ぶ習慣、自律的に考え判断する能力、課題解決のために行動・チャレンジできる教養」を身につけさせることが必要であると考え、その実現のためにカリキュラムを設置しています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/science-engineering/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/science-engineering/</a>）</p>
<p>（概要）</p> <p>理工学部は、社会で求められる創造性豊かな人材を育成します。このため学部教育での到達目標として、国際化に対応できる学問的素養、的確な判断力、社会をリードできる能力の伸長を重視します。従って各学科への適性を兼ね備えた基礎学力を持つ人材はもちろんのこと、基礎学力のみにとらわれず社会のニーズ変化に即した多種多様な能力を持つ人材も併せて受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理工学部での履修に必要な基礎学力を有し、学修の遂行に意欲を持つ人。</li> <li>2. 社会への貢献、公共の福祉を理解し、これらを尊重することのできる倫理観を持つ人。</li> <li>3. 知的好奇心があり、自然科学及び科学技術に対して強い関心を持つ人。</li> <li>4. 将来の目標を定め、目的意識を持って学修に取り組むことができる人。</li> </ol>

<p>学部等名 建築学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/</a>）</p>
<p>（概要）</p> <p>本学の学則に掲げており、建築学部では大学全体の方針に基づき、理念と目的として、つくり・守り・育てる建築学の修得と共に、学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけ、自律的に考え、判断し、課題解決のために行動・チャレンジできる教養豊かで創造性に富む人材を育成することと、教育と研究の両側面から目的を記載し、ホームページで公開している。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/architecture/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/architecture/</a>）</p>
<p>（概要）</p> <p>建築学部では、卒業までに身につけるべき知識・能力として、幅広い知識と深い洞察力を培い、コミュニケーション能力とグローバルな視点を持ち、柔軟な思考・発想で国際化社会に貢献できること、「建築図面を読み描きする能力」を身につけ、都市や建築を形成していく広範なデザイン能力を修得すること、「つくり・守り・育てる」建築学を理解し、幅広い建築関連分野で活躍できる専門知識・技術を修得すること、社会の課題や問題を、建築学の専門知識・技術にもとづき高い倫理観をもって創造的に解決する能力を身につけることを掲げ、ホームページで公開している。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：  <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/architecture/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/architecture/</a>）</p>

<p>(概要)</p> <p>建築学部では、従来の「つくる」ことを主たる目的とした建築学に加えて、「守り・育てる」建築学を幅広く身につけるために、共通教養科目、外国語科目ならびに建築分野の基礎的な知識・技術を幅広く学ぶことができる。共通教養科目では、人文・社会科学の素養、数学・物理・情報処理の基礎知識、専門家倫理を身につけるためのプログラムを提供し、外国語科目では、語学教育を重視し、コミュニケーション能力とともにグローバルな視点で思考・発想できる基礎能力を養成する。学部基礎科目では、建築工学の基礎的理解をもとに、建築図面を読み取り、図面で表現でき、図面をもとにコミュニケーションができる能力を身につけ、専門科目では、建築工学、建築デザイン、住宅建築、企画マネジメントの各専攻において、実社会で通用する高度な専門知識・技術を修得できるプログラムを提供することについて、ホームページで公開している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/architecture/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/architecture/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>建築学部では、近畿大学建学の精神に則り、従来の「つくる」ことを主たる目的とした建築学に加え、「守り・育てる」建築学を学ぶ場を提供し、実学教育によって、現代社会の課題を読み解き、その課題解決に貢献する新しい建築を創造する人材を育成することを掲げている。建築関連分野に対して幅広い興味・関心を持つ人、建築学の修得に必要な基礎学力を修得している人、社会における互いの多様な価値観を理解し、これらを尊重することのできる倫理観を持つ人、地域環境・地球環境との共生の大切さを理解し、社会に貢献できる新たな技術を創造しようとするチャレンジ精神を持つ人材を受け入れることについて、ホームページで公開している。</p>

<p>学部等名 薬学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>本学の学則に掲げており、薬学部では大学全体の方針に基づき、理念と目的として21世紀の生命科学、基礎薬学、創薬科学、医療薬学、衛生薬学などの基盤に立脚し、医療に貢献できる薬剤師を養成するとともに、これらの薬学分野での研究に貢献し、活躍できる人材の育成を行うことにより、人類の福祉と健康に奉仕することである。これらの理念を具現化するために以下のような人材の育成を教育の目標とするとともに、薬学に関わる多様な分野での研究に取り組むことを使命としている。具体的には、薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力並びに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成すること、さらに医薬品の創製・発見や開発・適用などの分野で社会と人類の福祉・健康に貢献できる創造性にあふれた有能な薬学研究者、薬学技術者を社会に輩出することを学部教育の目的としている。薬学部卒業生は、医療の現場で薬を扱う立場に立つこと、あるいは人の生命に直結する医薬品の創製・開発に携わることから、専門知識・技能に加えて、幅広い教養とともに、生命、医療に対する高い倫理観をもち、豊かな人間性を備えた社会に信頼される人材の養成も本学部の重要な使命、教育目標の一つであると、教育と研究の両側面から目的を記載し、ホームページで公開している。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/pharmacy/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/pharmacy/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>薬学部では、教育研究上の目的を達成するためのカリキュラムを策定しており、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（薬学）あるいは学士</p>

<p>(薬科学) の学位を授与する。</p> <p>卒業までに身につけるべき資質として8項目を挙げており、医療人としての使命感と倫理観、幅広い教養と医療に関する高度な知識、高度な先進医療に対応できる臨床能力、臨床における問題解決能力及び自己啓発力、薬の創製に関わる研究者、技術者としての使命感と倫理観、論理的思考力とグローバル化に対応できる英語力、幅広い教養と医薬品創製に関わる知識、最先端の創薬研究を推進できる能力について内容を記載している。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：  <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/pharmacy/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/pharmacy/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>薬学部では、薬に関する幅広く高度な専門知識と優れた臨床能力を有する薬剤師、リサーチマインドを有し、薬学研究の発展に貢献できる人材を養成するとともに、有機化学、レギュラトリーサイエンス、ゲノム科学、in silico 創薬、細胞生物学などの最先端の薬学分野の知識とテクノロジーに精通し、医薬品の創製、開発などの分野で薬学研究者・技術者としてグローバルに活躍できる人材を社会に輩出するために、特色あるカリキュラムを提供している。</p> <p>共通教養科目においては、人文・社会系の科目や自然科学系の科目、少人数グループ討論授業の科目により、教養系科目を充実させ、専門科目の学修に対するモチベーションを高めている。</p> <p>外国語科目においてはグローバルに活躍できる人材を育成するために、ネイティブ教員を含む語学専任教員による充実した語学教育プログラムを導入している。</p> <p>専門科目においては、臨床に直結する薬物治療等に関する科目に加えて、高度先端医療に対応できる人材の養成をめざした最先端医療系科目を導入している。また、基礎から発展まで幅広い創薬研究に対応できる知識と技術を修得するために、有機合成化学や分析化学関連の講義を充実させ、ゲノム創薬やin silico 分子設計学など最先端の講義と実習も導入している。さらに、長期にわたる卒業研究を通し、問題発見能力・課題解決能力を養成している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/pharmacy/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/pharmacy/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>薬学部は、近畿大学建学の精神、すなわち「実学教育」と「人格の陶冶」に則り、薬学部教育研究上の目的を実現するために、本学部の理念に共感する次のような資質を有する入学者を国内外から広く受入れ、薬に関する幅広い専門知識や最先端のテクノロジーに精通したグローバルに活躍できる人材を育成する。</p> <p>求める資質として、将来薬剤師、または創薬研究・開発に携わる研究者、技術者として社会に貢献したい意欲を持つ人、医療の発展に貢献しようとする意欲のある人、最先端の薬学研究に取り組む意欲のある人など5項目を挙げている。</p> <p>また、薬学部の入学試験では、学力試験の他、薬学部教員による口頭試問・高校時の学業成績などにより上記の資質を有する多様な人材を選抜しており、薬学部に入学者までに国語、英語、数学、理科、地歴公民において理解していることが望まれる内容について記載している。</p>

学部等名 文芸学部
教育研究上の目的（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/</a> ）
（概要） 文芸学部では大学全体の方針に基づき、〈超ジャンル〉的な文芸世界の探求と創造を理念としています。〈超ジャンル〉とは、ともすれば狭い専門領域にのみとられがちであった既存の文学部の概念を克服し、文学、文化・歴史、芸術、文化デザインのどの学科に学ぼうとも、人間の命を護り、その命を輝かせる歴史的・社会的な試みこそが今と未来を担う者の責務であることを共通理念としています。
卒業の認定に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/lit-art-cul/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/lit-art-cul/</a> ）
（概要） 文芸学部では文学、歴史、文化、思想、芸術、コミュニケーションの知識や技能を身につけ、社会に対し創造的な貢献のできる人を育成します。この育成方針に則り、厳格な成績評価によって所定の単位の修得が認められた学生に卒業を認定し、学士(文学、文芸学)を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/lit-art-cul/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/lit-art-cul/</a> ）
（概要） 個人および社会の自由と幸福を追求するために、教養、判断力、趣味、共感能力を高め、さらに文化領域について深く学び、考え、実践することで、思考力、美的感性、創造力、批評精神を涵養します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/lit-art-cul/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/lit-art-cul/</a> ）
（概要） 文芸学部は、近畿大学の「建学の精神」、「教育理念」に則り、それにふさわしい人材を育成するため、意欲と能力を持つ人を入学者として受入れます。選抜の方法は、学科専攻のアドミッションポリシーに則り、筆記試験と実技試験、口頭試問等によって、文芸学部で学ぶ意欲と能力を判定します。文芸学部では、文学、歴史、文化、思想、芸術、コミュニケーションの知識や技能を身につけ、社会に対し創造的な貢献のできる人を育成します。

学部等名 総合社会学部
教育研究上の目的（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/</a> ）
（概要） 大学の学則に掲げており、総合社会学部では大学全体の方針に基づき、理念と目的として多様な視点から現代社会が直面する複雑な問題群を理解し、多様な見方を総合化していくために、人々の心的活動や行動（心理学）・社会システム（社会学）・環境と社会の関係（環境学）というミクロな視点からマクロな視点まで、視点の異なる学問分野を連携させた教育・研究の両側面から複雑化した現代社会の問題群に一つの組織として総合的に取り組むことを目的として、ホームページで公開している。
卒業の認定に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/sociology/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/sociology/</a> ）

<p>(概要)</p> <p>総合社会学部では大学全体の方針に基づき、専門分野について基礎的な知識を身につけ、日本語や外国語を用いてプレゼンテーション、コミュニケーションを図ることができ、社会問題の解決や生活の質的向上のため、生涯を通じて学習し、自律的に行動できる資質・能力を身につけるために、ミクロな視点からマクロな視点、ローカルな視点からグローバルな視点まで、多様な見方を総合化していくことができることを教育の到達目標としており、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：  <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/sociology/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/sociology/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>総合社会学部では大学全体の方針に基づき、「共通教養科目」「外国語科目」と本学部独自の「学部共通コア科目」により本学部生の土台を形成し、その土台の上に連続して「専門科目」を基礎から発展へと編成することにより教育課程の体系性を確保している。4年間一貫してゼミナール形式の少人数教育を行い、複雑化する社会問題を総合的、実証的に捉え、問題解決を図る能力を育成する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/sociology/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/sociology/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>総合社会学部では大学全体の方針に基づき、大学での学びに展開できる確かな基礎学力を持ち、様々な社会問題に多様な視点から物事を考え、自律的に課題を見出し、論理的・科学的に考えることができる人を入学者受入れ方針として掲げている。また、高校までの科目履修等によって、論理的・構造的に思考するための読解力や表現力を身につけ、日本や世界の情勢や地域特性について総合的に理解し、外国語における基礎的な読解能力、会話能力および語彙力が身につけていることが望まれる。</p>

<p>学部等名 国際学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>国際学部では、本学の学則に掲げているとおり、大学全体の方針に基づき、外国語による高いコミュニケーション能力を有し、幅広い教養と専門性を備え、自文化と他文化を尊重し、かつ多面的に理解し、自主性と協調性を持って行動できる人材、すなわち「国際教養人」を育成し、グローバル社会に活躍できる人材の輩出を目的とする。  この内容は、本学の学則に掲げており、大学のホームページで公開している。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/international-studies/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/international-studies/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>厳格な成績評価によってカリキュラムを運営し、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」の観点から、国際学部が期待する能力（所定の単位）を修得した学生に卒業を認定し、学士（国際学）の学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：  <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/international-studies/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/international-studies/</a>）</p>



<p>(概要)</p> <p>国際学部の全体的カリキュラムを基盤として、ディプロマポリシーに適う資質、能力を育成するため、留学前・留学中・留学後に提供する教育を有機的に連携させることを目的に、共通教養科目、外国語科目、学部共通科目、言語科目、留学科目、専門基礎・専門発展科目の科目群で教育課程を編成している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/international-studies/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/international-studies/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>国際学部では、「国際教養人」を育成するため、その素養を持った入学生を受入れ、高校までに身につけていることが望まれる能力について定めている。また、アドミッションポリシーに即し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者等を対象にしたAO入試の他、公募推薦入試や一般入試において、国際学部独自方式を設定している。</p>

<p>学部等名 農学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>本学の学則に掲げており、農学部では大学全体の方針に基づき、社会を支える高い志をもつ学生を社会に送り出すことが、本学部が目指す社会的使命とし、ホームページで公開している。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/agriculture/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/agriculture/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>農学部および農学部各学科の教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修、卒業研究での審査に合格し所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（農学）の学位を授与。卒業までに身につけるべき資質・能力は以下の通り。 基礎的な学習能力を養い、論理的な思考力・グローバルな視点で解決する能力・国際的にも通用するコミュニケーション基礎能力を身につけ、社会に対して負っている責任を認識し、自己を確立していること。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/agriculture/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/agriculture/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>本学の「建学の精神」と「教育理念」に基づき、また、農学部の特色である食料、環境、生命、健康というキーワードを中心におき、〈共通教養科目〉〈外国語科目〉〈専門基礎科目〉〈専門科目〉を設け、生きた実学教育の充実を図る。さらに、学部学科の特色を生かし、教員、学芸員などの資格取得のための教育プログラムを展開。インターンシップ制度、ボランティア制度、留学制度を設け、社会との接点をもてるような教育を提供。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/agriculture/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/agriculture/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>農学部では、建学の精神に基づき、地球環境と生命現象に興味を持ち、暮らしに役立つ未来の技術を開拓し、グローバルな視野を持って社会に貢献しようとする人材を育成。学部の教育理念に基づき、社会的ニーズに対応した専門的知識と技術を修得し、豊かな倫理</p>

性・人間性を兼ね備えた実践的な人材を育成。  
推薦入試、一般入試他様々な入試を実施し、幅広い分野から多様な能力・高い基礎学力を有した学生を求めます。

学部等名 医学部
教育研究上の目的（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/</a> ）
（概要） 近畿大学の建学の精神は、「実学教育」と「人格の陶冶」である。 また、教育の目的は、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人を育成すること」としている。医学部は、この大学全体の方針に基づき、「温かい心」と「優れた医療技術」を身につけた医師・医学者の育成を教育理念に掲げ、ホームページで公開している。
卒業の認定に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/medicine/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/medicine/</a> ）
（概要） 医学部では、「医師に必要な基礎的知識・技能の修得」、「自ら問題を解決する積極的な態度の養成」、「広い学問的視野の育成」、「奉仕の心と協調精神の涵養」、「豊かな人間性と高邁な倫理観・責任感の養育」を教育の目標とし、厳格な成績評価により教育カリキュラムを運営しています。そして6年間にわたり開講された科目をすべて履修して所定の単位を修得し、各科の最終試験と総合試験に合格した学生に卒業を認定し、学士（医学）の学位を授与している。卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のとおり。  1. 医師になるために必要な医学の知識と技能を修得し、さらに日々向上に努めること。 2. 積極的に課題に取り組み、さらに自ら問題点を見だし解決する姿勢を身につけること。 3. 他者を理解する幅広い教養と国際化の時代に対応できる英語力を身につけること。 4. 患者に対する思いやりと奉仕の精神またチームワークにおける協調精神を身につけること。 5. プロフェッショナルとしての高い使命感と倫理観を持ち、人に愛され、人に信頼され、人に尊敬される医師を目指すこと。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/medicine/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/medicine/</a> ）
（概要） 教養教育、基礎医学教育、臨床医学教育、臨床実習へと積み上げ型の一体教育を行っている。低学年から医療・看護の現場や基礎医学研究の現場を体験させる。問題解決型教育の導入により自ら課題に取り組む姿勢を養成する。グローバル社会に対応する高い英語力を養成する。複数年次にわたる倫理教育とプロフェッショナリズム教育により高い職業倫理観と責任感を育てる。医師国家試験合格を達成するために高度な臨床医学教育を実施する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/medicine/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/medicine/</a> ）
（概要） 医学部は、近畿大学の建学の精神に則り、「実学教育」と「人格の陶冶」を重視する。また教育理念に則り、「人に愛され、人に信頼され、人に尊敬される」医師の育成を目指し

ている。本学の「建学の精神」と「教育理念」に共感し、将来、良き医師として社会に貢献することを志望する入学者を受け入れている。

1. 医学を志し、そのために必要な強い意思と高い理想を持つ人。
2. 医学の課程を学ぶために十分な基礎学力を備える人。
3. 自ら課題を発見し解決していく意欲にあふれる人。
4. 奉仕の精神と協調精神に富む人。
5. 倫理観と責任感に富む人。

学部等名 生物理工学部
教育研究上の目的（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/</a> ）
（概要） 本学の学則に掲げており、生物理工学部では大学全体の方針に基づき、理念と目的として、本学部は、生物系と理工学系の伝統的な科学・技術に裏打ちされた学際的な先端学術分野に係わる未来志向の教育と研究を通じて、高度な専門能力、豊かな教養に基づく独創的な創造力、そして高い倫理観と自主独往の精神を兼ね備えた人格の陶冶を理念とし、地域及び国際社会との連携や人類社会の福祉と持続的発展に貢献できる人材を育成することを理念目的として掲げ、ホームページで公開している。
卒業の認定に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/bost/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/bost/</a> ）
（概要） 生物理工学部は、生命科学と理工学の学際的な学術分野の教育研究を通じて、地域社会ならびに国際社会と連携して人類社会の福祉と持続可能な発展に寄与できる人材の育成を目指しています。生物理工学部では、所定の期間在学し、所属学科の卒業所要単位表に記載の全ての要件を満たしている学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/bost/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/bost/</a> ）
（概要） 生物理工学部は、21世紀の社会が直面する「食糧」、「医療・福祉」、「人間生活の環境」における学際的分野の課題を自ら発見し解決できる人材を育成するためアクティブラーニングを含めた以下のようなカリキュラムを提供しています。特に、専門科目では、社会のニーズに対応できる豊かな教養に裏打ちされた専門性を高める教育プログラムを、各学科の人材育成目標に沿って提供します。実験・実習・演習を重視し、産学連携を推進し、生きた実学教育を実施します。また、学科の枠を超えた学際領域選択科目を設け、学際的な学術分野の専門知識を深めます。さらに、学科毎に研究室に所属して行う卒業研究では、教員や大学院生との深い相互討論によって、基礎的あるいは最先端の研究を体験し、専門知識の深化と専門技術の修得を図ります。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/bost/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/bost/</a> ）
（概要） 生物理工学部は、近畿大学建学の精神に則り、生命科学と理工学の学際的分野で、系統的な基礎科目の教育と学科毎に高度な専門教育を実施して、社会に貢献できる多様性を持つ優れた人材を育成します。このために、次のような入学者を広く受入れます。 1. 各学科での履修に必要な基礎学力を十分に有している人。

2. 自然科学と最先端の科学技術に広く関心を持つ人。
3. 将来の目標を定め、強い意志を持って勉学を志す人。
4. 能動的に学ぶ姿勢を有している人。
5. 幅広い視点から論理的に課題を解決していく意欲にあふれる人。
6. 高い倫理観を持って謙虚な姿勢で社会に貢献しようと志す人。
7. 他者との関わりを大切にし、コミュニケーション能力を高め、社会に飛躍しようとする人。

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/</a> ）
<p>（概要）</p> <p>本学の学則に掲げているとおり、工学部では大学全体の建学の精神と教育理念の方針に基づき、グローバル化が進む高度情報化社会の時代の要請に応えるべく、人間性、専門性、国際性を備えた持続可能な社会を実現できる技術者・研究者を育成することを理念目的として掲げ、ホームページで公開している。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/engineering/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/engineering/</a> ）
<p>（概要）</p> <p>工学部では、人間性、専門性、国際性を備えた技術者・研究者を育成するため、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得することに加えて、卒業までに高い人格と倫理観を培うこと、持続可能な社会を目指すための課題発見・分析・解決能力を身につけること、表現力、論理的思考力、コミュニケーション能力や幅広い知識を活用して国際視点に立って行動する能力を身につけることを身につけるべき資質として掲げ、ホームページで公開している。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/engineering/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/engineering/</a> ）
<p>（概要）</p> <p>工学部では、人間性、専門性、国際性を備えた技術者・研究者を育成するため、総合科目にて、人間尊重と公共性の意識、論理的思考力と問題解決力、表現力とコミュニケーション力等を育成し、豊かな教養と人間性を涵養し、外国語科目にて、系統的に配置された科目により、実践的な語学力、国際性を育成し、専門科目にて、分野及びレベル毎に階層化した科目により、幅広く応用可能な専門能力を身につける。また、創成的な卒業研究等から産学連携研究等を通して、実践的な専門性を育成するとして掲げ、ホームページで公開している。</p>
入学者の受入れに関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/engineering/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/engineering/</a> ）
<p>（概要）</p> <p>工学部では、近畿大学建学の精神に則り、持続可能な社会を築くために必要となる高い人格と多様な価値観を理解・尊重できる倫理観（人間性）、旺盛な学習意欲により身につけられた専門能力（専門性）及び国際化時代を生き抜く力（国際性）を実学教育のもとに技術者・研究者を育成することを掲げ、ホームページで公開している。</p>

学部等名 産業理工学部
教育研究上の目的（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/</a> ）
（概要） 本学の学則に掲げているとおり、産業理工学部では大学全体の建学の精神と教育理念の方針に基づき、従来の大学における文科と理科の枠を超えた理工系・芸術系・文系のクロスによる新たな知の創造を目指し、また東アジアの国際交流拠点である九州という地の利も生かして、文理シナジー的発想を持った専門職業人を育成することを教育の理念目的として掲げ、ホームページで公開している。
卒業の認定に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/hose/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/hose/</a> ）
（概要） 産業理工学部では、自然・技術・人文・社会が調和する文理協働の発想をもった教養ある社会人を育成するため、厳格な成績評価のもと所定の単位を修得することに加え、自ら課題を発見し解決策を探るような自己の向上に努める態度、技術に偏らず人と自然・技術・人文・社会が調和する文理協働の発想、21世紀社会の課題に応えられる教養ある社会人としての知識と能力を身につけるべき資質として掲げ、ホームページで公開している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/hose/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/hose/</a> ）
（概要） 産業理工学部では、自然・技術・人文・社会が調和する文理協働の発想をもった教養ある社会人を育成するため、教養・基礎教育科目にて、社会における倫理の問題、国際化とそれともなう異なる文化の理解、自らを表現するための論理的な思考法や母国語としての日本語、コミュニケーションツールとしての語学を学ぶことにより豊かな人格形成を目指す。さらに、専門科目にて、各学科で設定された人材育成目標に沿って、講義だけではなく豊富な実験・実習、演習科目を通して専門に関する知識や技能を修得し、実践力を養成することを掲げ、ホームページで公開している。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/hose/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/hose/</a> ）
（概要） 産業理工学部では、近畿大学建学の精神に則り、実学教育のもとに技術に偏らずコミュニケーション能力を持ったフロンティア人材育成のため、入学者としては、本学の教育理念に共感し、これからの新しい社会を築くことに対して関心を持ち、かつものごとを総合的に捉える視点を身につけたいと考え、そのために目標に向けて協力して行動できる人を受け入れることを方針として掲げ、ホームページで公開している。

学部等名 通信教育法学部法律学科
教育研究上の目的（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/#cont03">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/#cont03</a> ）
（概要） 本学の学則に掲げており、通信教育法学部では大学全体の方針に基づき、通信の方法によって人類の福祉に必要な学術の理論と応用とを教授し、併せて人格の陶冶と教養の向上に寄与すること、憲法・民法・商法・刑法などのいわゆる六法科目を中心に、法律学体系の基礎理論を学ぶとともに、さまざまな社会現象を把握する広い視野と法的な思考能力を身につけることを目的とすることを記載し、ホームページで公開している。

卒業の認定に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/jc/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/jc/</a> ）
（概要） 通信教育法学部は、近畿大学の建学の精神や教育理念を念頭に、「激動する社会の中で広い視野と豊かな法的思考により、積極的かつ柔軟に行動する能力を修得させることと、そのような能力を備えた21世紀を担う人材を育成すること」を教育目標としており、目標に照らした厳格な成績評価を行っています。所定の年限在学し、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士(法学)の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/jc/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/jc/</a> ）
（概要） 通信制課程では、学力・能力・年齢・居住地・生活環境など、千差万別な学習環境や入学の目的も異なる希望者が、入学資格を有していれば選抜すること無く入学許可が認められるため、学生の主体的学習機会の提供をできるカリキュラム編成が必要と考え、学問分野や専攻領域の体系性を考慮したうえで必須となる科目を極力少なくし、他方選択科目を多く開講することで、選択肢つまり履修のバリエーションを整え、各自の学習目的の達成や学習計画を容易にすることを第一と考えています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/jc/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/jc/</a> ）
（概要） 通信教育法学部は、関西における大学通信教育の草分けであり、大学の門戸を広く社会に開放すべく設立されました。「いつでも・どこでも・誰でも」という基本方針のもと、近畿大学建学の精神に則り、法的に物事を考える姿勢を身につけた社会で求められる人材を育成します。

## ②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/educational-info/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
法学部	—	24人	15人	1人	人	人	40人
経済学部	—	22人	21人	5人	人	人	48人
経営学部	—	49人	34人	13人	人	人	96人
理工学部	—	67人	60人	31人	6人	人	164人
建築学部	—	13人	12人	7人	1人	人	33人
薬学部（4年制）	—	5人	3人	6人	人	人	14人
薬学部（6年制）		14人	12人	8人	6人	1人	41人
文芸学部	—	35人	20人	6人	人	人	61人
総合社会学部	—	17人	24人	6人	人	人	47人
国際学部	—	13人	14人	4人	人	人	31人
農学部	—	36人	32人	15人	5人	6人	94人
医学部	—	57人	44人	160人	150人	2人	413人
生物理工学部	—	32人	23人	16人	2人	人	73人
工学部	—	35人	27人	13人	4人	人	79人
産業理工学部	—	29人	23人	5人	1人	人	58人
教養部（一般教養）	—	11人	5人	4人	人	人	20人
大学院	—	9人	2人	人	人	人	11人
附属病院	—	34人	27人	31人	170人	3人	265人
附置研究所	—	23人	17人	11人	6人	1人	58人
その他	—	4人	2人	6人	人	1人	13人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		1,584人				1,584人	
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： <a href="https://research.kindai.ac.jp/search/index.html">https://research.kindai.ac.jp/search/index.html</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>全学的組織である教育改革推進センターにおいて、本学の全教員を対象とした全学 FD 研究集会を年 2 回開催している。立地上、離れた学部に関しては Web 経由で同時配信を行っている。</p> <p>各学部においては、それぞれの特性を考慮した学部 FD を実施しており、テーマや出席状況は前述の教育改革推進センターへ報告を義務化している。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
法学部	500人	527人	105.4%	2,000人	2,073人	103.7%	人	3人
経済学部	760人	795人	104.6%	3,040人	3,174人	104.4%	人	10人
経営学部	1,340人	1,334人	99.6%	5,360人	5,614人	104.7%	人	76人
理工学部	1,130人	1,112人	98.4%	4,520人	4,603人	101.8%	人	1人
建築学部	280人	297人	106.1%	1,120人	1,203人	107.4%	人	4人
薬学部(4年制)	40人	41人	102.5%	160人	159人	99.4%	人	人
薬学部(6年制)	150人	155人	103.3%	900人	934人	103.8%	人	人
文芸学部	515人	540人	104.9%	2,060人	2,077人	100.8%	人	3人
総合社会学部	510人	524人	102.7%	2,040人	2,127人	104.3%	人	1人
国際学部	500人	529人	105.8%	2,000人	2,107人	105.4%	人	人
農学部	680人	688人	101.2%	2,720人	2,690人	98.9%	人	人
医学部	107人	106人	99.1%	682人	735人	107.8%	人	人
生物理工学部	485人	474人	97.7%	1,940人	1,895人	97.7%	人	2人
工学部	545人	508人	93.2%	2,180人	2,152人	98.7%	人	人
産業理工学部	420人	432人	102.9%	1,680人	1,691人	100.7%	人	2人
通信教育法学部	2,000人	74人	3.7%	8,000人	1,249人	15.6%	人	136人
合計	9,962人	8,136人	81.7%	40,402人	34,483人	85.3%	人	238人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
法学部	600人 (100%)	12人 ( 2.0%)	532人 ( 88.7%)	56人 ( 9.3%)
経済学部	704人 (100%)	4人 ( 0.6%)	646人 ( 91.8%)	54人 ( 7.7%)
経営学部	1,310人 (100%)	12人 ( 0.9%)	1,228人 ( 93.7%)	70人 ( 5.3%)
理工学部	991人 (100%)	235人 ( 23.7%)	725人 ( 73.2%)	31人 ( 3.1%)
建築学部	257人 (100%)	30人 ( 11.7%)	222人 ( 86.4%)	5人 ( 1.9%)
薬学部(4年制)	30人 (100%)	17人 ( 56.7%)	12人 ( 40.0%)	1人 ( 3.3%)
薬学部(6年制)	155人 (100%)	11人 ( 7.1%)	138人 ( 89.0%)	6人 ( 3.9%)



文芸学部	518人 (100%)	8人 ( 1.5%)	466人 ( 90.0%)	44人 ( 8.5%)
総合社会学部	490人 (100%)	20人 ( 4.1%)	435人 ( 88.8%)	35人 ( 7.1%)
国際学部	447人 (100%)	6人 ( 1.3%)	411人 ( 91.9%)	30人 ( 6.7%)
農学部	735人 (100%)	110人 ( 15.0%)	593人 ( 80.7%)	32人 ( 4.4%)
医学部	106人 (100%)	0人 ( 0%)	0人 ( 0%)	106人 ( 100%)
生物理工学部	465人 (100%)	69人 ( 14.8%)	379人 ( 81.5%)	17人 ( 3.7%)
工学部	461人 (100%)	53人 ( 11.5%)	398人 ( 86.3%)	10人 ( 2.2%)
産業理工学部	369人 (100%)	19人 ( 5.1%)	334人 ( 90.5%)	16人 ( 4.3%)
合計	7,638人 (100%)	606人 ( 7.9%)	6,519人 ( 85.3%)	513人 ( 6.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 大和ハウス工業株式会社、大阪府教育委員会、株式会社関西みらい銀行、株式会社紀陽銀行、山崎製パン株式会社、大阪市教育委員会、大阪府警、西日本旅客鉄道株式会社、積水ハウス株式会社、富士ソフト株式会社、フジパングループ本社株式会社、株式会社きんでん、株式会社ニトリ、東海旅客鉄道株式会社、三菱自動車工業株式会社				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
法学部	625人 (100%)	513人 ( 82.1%)	75人 ( 12.0%)	37人 ( 5.9%)	人 ( %)
経済学部	747人 (100%)	615人 ( 82.3%)	93人 ( 12.4%)	39人 ( 5.2%)	人 ( %)
経営学部	1,323人 (100%)	1,119人 ( 84.6%)	130人 ( 9.8%)	74人 ( 5.6%)	人 ( %)
理工学部	1,112人 (100%)	884人 ( 79.5%)	134人 ( 12.1%)	94人 ( 8.5%)	人 ( %)
建築学部	271人 (100%)	235人 ( 86.7%)	24人 ( 8.9%)	12人 ( 4.4%)	人 ( %)
薬学部 (4年制)	34人 (100%)	29人 ( 85.3%)	2人 ( 5.9%)	3人 ( 8.8%)	人 ( %)
薬学部 (6年制)	157人 (100%)	122人 ( 77.7%)	25人 ( 15.9%)	10人 ( 6.4%)	人 ( %)
文芸学部	571人 (100%)	473人 ( 82.8%)	49人 ( 8.6%)	49人 ( 8.6%)	人 ( %)
総合社会学部	529人 (100%)	431人 ( 81.5%)	68人 ( 12.9%)	30人 ( 5.7%)	人 ( %)
国際学部	539人 (100%)	447人 ( 82.9%)	68人 ( 12.6%)	24人 ( 4.5%)	人 ( %)

農学部	774人 (100%)	703人 ( 90.8%)	41人 ( 5.3%)	30人 ( 3.9%)	人 ( %)
医学部	110人 (100%)	82人 ( 74.5%)	27人 ( 24.5%)	1人 ( 0.9%)	人 ( %)
生物理工学部	511人 (100%)	425人 ( 83.2%)	48人 ( 9.4%)	38人 ( 7.4%)	人 ( %)
工学部	517人 (100%)	418人 ( 80.9%)	59人 ( 11.4%)	40人 ( 7.7%)	人 ( %)
産業理工学部	407人 (100%)	344人 ( 84.5%)	32人 ( 7.9%)	31人 ( 7.6%)	人 ( %)
合計	8,227人 (100%)	6,840人 ( 83.1%)	875人 ( 10.6%)	512人 ( 6.2%)	人 ( %)
(備考) 入学者数については転学部による転入・転出を考慮した人数を計上している。内訳は以下のとおり。 〔転入〕法学部：1名・経営学部：7名・理工学部：4名・建築学部：3名・薬学部（6年制）：1名・文芸学部：4名・総合社会学部：1名・農学部：1名・工学部：1名 合計：23名 〔転出〕法学部：1名・経済学部：1名・経営学部：2名・理工学部：4名・薬学部（4年制）：1名・文芸学部：2名・生物理工学部：2名・工学部：2名・産業理工学部：8名 合計：23名					

#### ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 本学の教育改革推進センターが中心となり、上記内容を含む項目の記載例等、詳細な記載ルールを盛り込んだ「シラバス記入上の留意事項」を作成。各学部の学部長補佐、事務部長を委員とした教育改革推進センター運営委員会にてこれに基づくシラバス作成の依頼を各学部に対して行い、更には学部内でのシラバス点検・監査報告の提出を義務付けている。このような取り組みを経て、授業計画（シラバス）を作成し、本学のホームページ上で公表している。
---

#### ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 本学の教育改革推進センターが中心となり作成した、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を含む項目の記載例等、詳細な記載ルールを盛り込んだ「シラバス記入上の留意事項」において、成績評価方法及び基準という項目にて成績評価の考え方をよい記入例・悪い記入例を示しながら、適切な評価方法を記載するよう周知し、学部内における点検・監査項目のひとつとしてチェックを行っている。また、本学の教育改革推進組織のひとつである学士力強化検討委員会において、卒業の認定方針策定に係るガイドラインを設定し、これを各学部周知のうえ方針を作成した。作成された方針は同委員会によるチェックを経て、ホームページに公表している。
--

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
法学部	法律学科	128 単位	有・無	49 単位
経済学部	経済学科	128 単位	有・無	49 単位
	総合経済政策学科	128 単位	有・無	49 単位
	国際経済学科	128 単位	有・無	49 単位
経営学部	経営学科	124 単位	有・無	44 単位
	商学科	124 単位	有・無	44 単位
	会計学科	124 単位	有・無	44 単位
	キャリア・マネジメント学科	124 単位	有・無	44 単位

理工学部	理学科	124 単位	有・無	48 単位
	生命科学科	124 単位	有・無	48 単位
	応用化学科	124 単位	有・無	48 単位
	機械工学科	124 単位	有・無	48 単位
	電気電子工学科	124 単位	有・無	48 単位
	社会環境工学科	124 単位	有・無	48 単位
	情報学科	124 単位	有・無	48 単位
建築学部	建築学科	124 単位	有・無	48 単位
薬学部	医療薬学科	188 単位	有・無	18 科目(1 年次前期)
				18 科目(1 年次後期)
				23 科目(2 年次前期)
				24 科目(2 年次後期)
				17 科目(3 年次前期)
				13 科目(3 年次後期)
				12 科目(4 年次前期)
	創薬科学科	131.5 単位	有・無	6 科目(4 年次後期)
				5 科目(5 年次前期)
				5 科目(5 年次後期)
				10 科目(6 年次前期)
				4 科目(6 年次後期)
				19 科目(1 年次前期)
				20 科目(1 年次後期)
18 科目(2 年次前期)				
19 科目(2 年次後期)				
15 科目(3 年次前期)				
11 科目(3 年次後期)				
8 科目(4 年次前期)				
5 科目(4 年次後期)				
文芸学部	文学科	124 単位	有・無	48 単位
	芸術学科	124 単位	有・無	48 単位
	文化・歴史学科	124 単位	有・無	48 単位
	文化デザイン学科	124 単位	有・無	48 単位
総合社会学部	総合社会学科	126 単位	有・無	48 単位
国際学部	国際学科	130 単位	有・無	48 単位
農学部	農業生産科学科	124 単位	有・無	50 単位
	水産学科	124 単位	有・無	50 単位
	応用生命化学科	124 単位	有・無	50 単位
	食品栄養学科	124 単位	有・無	60 単位
	環境管理学科	124 単位	有・無	50 単位
	生物機能科学科	124 単位	有・無	50 単位
医学部	医学科	共通教養科目及び外国語科目 30 単位以上 学部基礎科目 615 時間以上  専門科目は 4,735 時間以上単位	有・無	全授業科目が必修科目のため登録上限はなし

生物理工学部	生物工学科	124 単位	有・無	49 単位
	遺伝子工学科	124 単位	有・無	49 単位
	食品安全工学科	124 単位	有・無	49 単位
	生命情報工学科	124 単位	有・無	49 単位
	人間環境デザイン工学科	124 単位	有・無	49 単位
	医用工学科	124 単位	有・無	49 単位
工学部	化学生命工学科	124 単位	有・無	49 単位
	機械工学科	124 単位	有・無	49 単位
	情報学科	124 単位	有・無	49 単位
	建築学科	124 単位	有・無	49 単位
	電子情報工学科	124 単位	有・無	49 単位
	ロボティクス学科	124 単位	有・無	49 単位
産業理工学部	生物環境化学科	128 単位	有・無	49 単位
	電気電子工学科	128 単位	有・無	49 単位
	建築・デザイン学科	128 単位	有・無	49 単位
	情報学科	128 単位	有・無	49 単位
	経営ビジネス学科	128 単位	有・無	49 単位
通信教育法学部	法律学科	124 単位 (3年編入 126 位)	有・無	1 年 46 単位 2～4 年 49 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)	公表方法：各学部における面談実施要項において、GPA 値が定める水準を下回った学生に対しては、修学支援の面談を実施している。 (通信教育部) 通信教育部独自の給付型奨学金採用に使用しており全学生に配布している補助教材にて掲載し周知している。			
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法： 授業評価アンケートの全学結果： <a href="https://www.kindai.ac.jp/campus-life/guide/enquete/">https://www.kindai.ac.jp/campus-life/guide/enquete/</a>			

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/educational-info/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
法学部 1 年	法律学科	1,085,000 円	250,000 円	20,000 円	課外活動育成費
法学部 2 年	法律学科	1,105,000 円	0 円	20,000 円	課外活動育成費
法学部 3 年	法律学科	1,125,000 円	0 円	20,000 円	課外活動育成費
法学部 4 年	法律学科	1,145,000 円	0 円	20,000 円	課外活動育成費

経済学部 1年	経済学科	1,085,000円	250,000円	20,000円	課外活動育成費
	総合経済政策学科				
	国際経済学科				
経済学部 2年	経済学科	1,105,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	総合経済政策学科				
	国際経済学科				
経済学部 3年	経済学科	1,125,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	総合経済政策学科				
	国際経済学科				
経済学部 4年	経済学科	1,145,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	総合経済政策学科				
	国際経済学科				
経営学部 1年	経営学科	1,085,000円	250,000円	20,000円	課外活動育成費
	商学科				
	会計学科				
	キャリア・マネジメント学科				
経営学部 2年	経営学科	1,105,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	商学科				
	会計学科				
	キャリア・マネジメント学科				
経営学部 3年	経営学科	1,125,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	商学科				
	会計学科				
	キャリア・マネジメント学科				
経営学部 4年	経営学科	1,145,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	商学科				
	会計学科				
	キャリア・マネジメント学科				
理工学部 1年	理学科	1,442,000円	250,000円	20,000円	課外活動育成費
	生命科学科				
	応用化学科				
	機械工学科				
	電気電子工学科				
	社会環境工学科				
	情報学科				
理工学部 2年	理学科	1,472,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	生命科学科				
	応用化学科				
	機械工学科				

	電気電子工学科				
	社会環境工学科				
	情報学科				
理工学部 3年	理学科	1,502,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	生命科学科				
	応用化学科				
	機械工学科				
	電気電子工学科				
	社会環境工学科				
	情報学科				
理工学部 4年	理学科	1,532,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	生命科学科				
	応用化学科				
	機械工学科				
	電気電子工学科				
	社会環境工学科				
	情報学科				
建築学部 1年	建築学科	1,442,000円	250,000円	20,000円	課外活動育成費
建築学部 2年	建築学科	1,472,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
建築学部 3年	建築学科	1,502,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
建築学部 4年	建築学科	1,532,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
薬学部 1年	医療薬学科	2,032,000円	250,000円	20,000円	課外活動育成費
	創薬科学科	1,442,000円	250,000円	20,000円	課外活動育成費
薬学部 2年	医療薬学科	2,062,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	創薬科学科	1,472,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
薬学部 3年	医療薬学科	2,092,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	創薬科学科	1,502,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
薬学部 4年	医療薬学科	2,122,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	創薬科学科	1,532,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
薬学部 5年	医療薬学科	1,465,000円	0円	570,000円	教育充実費 課外活動育成費
薬学部 6年	医療薬学科	1,495,000円	0円	570,000円	教育充実費 課外活動育成費
文芸学部 1年	芸術学科	1,442,000円	250,000円	20,000円	課外活動育成費
	文学科	1,085,000円	250,000円	20,000円	課外活動育成費
	文化・歴史学科				
	文化デザイン学科				
文芸学部 2年	芸術学科	1,472,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	文学科	1,105,000円	0円	20,000円	課外活動育成費

	文化・歴史学科				
	文化デザイン学科				
文芸学部 3年	芸術学科	1,502,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	文学科	1,125,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	文化・歴史学科				
	文化デザイン学科				
文芸学部 4年	芸術学科	1,532,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	文学科	1,145,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	文化・歴史学科				
	文化デザイン学科				
総合社会学部 1年	総合社会学科	1,085,000円	250,000円	20,000円	課外活動育成費
総合社会学部 2年	総合社会学科	1,105,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
総合社会学部 3年	総合社会学科	1,125,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
総合社会学部 4年	総合社会学科	1,145,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
国際学部 1年	国際学科	1,280,000円	250,000円	20,000円	課外活動育成費
国際学部 2年	国際学科	1,280,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
国際学部 3年	国際学科	1,300,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
国際学部 4年	国際学科	1,300,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
農学部 1年	農業生産科学科	1,442,000円	250,000円	20,000円	課外活動育成費
	水産学科				
	応用生命化学科				
	食品栄養学科				
	環境管理学科				
	生物機能科学科				
農学部 2年	農業生産科学科	1,472,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	水産学科				
	応用生命化学科				
	食品栄養学科				
	環境管理学科				
	生物機能科学科				
農学部 3年	農業生産科学科	1,502,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	水産学科				
	応用生命化学科				
	食品栄養学科				

	環境管理学科				
	生物機能科学科				
農学部 4年	農業生産科学科	1,532,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	水産学科				
	応用生命化学科				
	食品栄養学科				
	環境管理学科				
	生物機能科学科				
医学部 1年	医学科	4,100,000円	1,000,000円	1,700,000円	教育充実費 施設整備費 実験実習費
医学部 2～6年	医学科	4,100,000円	0円	1,700,000円	教育充実費 施設整備費 実験実習費
生物理工学 部1年	生物工学科	1,442,000円	250,000円	20,000円	課外活動育成費
	食品安全工学科				
	遺伝子工学科				
	生命情報工学科				
	人間環境デザイン工学科				
	医用工学科				
生物理工学 部2年	生物工学科	1,472,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	食品安全工学科				
	遺伝子工学科				
	生命情報工学科				
	人間環境デザイン工学科				
	医用工学科				
生物理工学 部3年	生物工学科	1,502,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	食品安全工学科				
	遺伝子工学科				
	生命情報工学科				
	人間環境デザイン工学科				
	医用工学科				
生物理工学 部4年	生物工学科	1,532,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	食品安全工学科				
	遺伝子工学科				
	生命情報工学科				
	人間環境デザイン工学科				
	医用工学科				
工学部 1年	化学生命工学科	1,378,000円	250,000円	20,000円	課外活動育成費
	機械工学科				
	情報学科				
	建築学科				
	電子情報工学科				



	ロボティクス学科				
工学部 2年	化学生命工学科	1,408,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	機械工学科				
	情報学科				
	建築学科				
	電子情報工学科				
	ロボティクス学科				
工学部 3年	化学生命工学科	1,438,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	機械工学科				
	情報学科				
	建築学科				
	電子情報工学科				
	ロボティクス学科				
工学部 4年	化学生命工学科	1,468,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	機械工学科				
	情報学科				
	建築学科				
	電子情報工学科				
	ロボティクス学科				
産業理工学 部1年	生物環境化学科	1,244,000円	250,000円	20,000円	課外活動育成費
	電気電子工学科				
	建築・デザイン学科				
	情報学科				
	経営ビジネス学科	869,000円	250,000円	20,000円	課外活動育成費
産業理工学 部2年	生物環境化学科	1,274,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	電気電子工学科				
	建築・デザイン学科				
	情報学科				
	経営ビジネス学科	899,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
産業理工学 部3年	生物環境化学科	1,304,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	電気電子工学科				
	建築・デザイン学科				
	情報学科				
	経営ビジネス学科	929,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
産業理工学 部4年	生物環境化学科	1,334,000円	0円	20,000円	課外活動育成費
	電気電子工学科				
	建築・デザイン学科				
	情報学科				
	経営ビジネス学科	959,000円	0円	20,000円	課外活動育成費

(通信教育部)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
法学部	法律学科	150,000 円	20,000 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 21 世紀教育改革委員会 (学生生活支援検討委員会) が中心となり、学生支援に関する大学としての基本方針並びに改善目標を策定・公表している。修学に係る支援に関しては、委員会より全学部へ面談実施基準の策定を依頼し、学期途中においては定めた出席率を下回った学生に対し、教職員が連携し、学期途中の早期支援面談を実施している。また、学期終了時の成績不振者に対しても面談を実施し、修学意欲の低下を防止する体制を全学的に構築している。加えて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により学生への経済的支援として支援金の給付、応急奨学金の新設、オンライン診療・カウンセリング、書籍の贈呈・宅配サービスを行っている。また、学修・生活面での支援としてパソコンの貸与 (有償)、オンライン授業の実施に向けた環境整備を実施している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリアセンターではキャリアガイダンス、業界研究会、課外講座、インターンシップ、TOEIC や MOS の学内試験など、低学年時から利用できるプログラムを多く揃えている。また、英語を使った就職活動への対応として、ネイティブのスタッフによるサポートを行い、海外でのインターンシップも実施している。さらに、TSUNAGU プロジェクトとして、留年生、留学生、大学院生を対象に、就職活動に対しての不安を早期からの個別サポートで解消していく「スタートアップサポート制度」、就職活動がうまく進まず不安を抱える学生に呼びかけ、これまでの就活の振り返りを行い、個別アドバイスを行う「リスタートサポート制度」、最終学年の秋時点で進路未決定の学生を対象に若手職員が学生一人ひとりの身近な理解者として、教員や学部事務部、キャリアセンターとの懸け橋となり進路に関わる相談を行う「キャリアアシスタント制度」等を実施し、東京センターでは首都圏で就職活動を行う学生を支援している。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止と健康と安全を確保するため、就職活動中の学生を対象に Web による就職相談や就職情報の提供を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 大学の協力により、学生の相互扶助制度である「近畿大学学園学生健保共済会」を設け、主に健康増進事業と保険共済事業を行っている。また、各キャンパスの保健管理室等では、応急措置以外にも、健康相談や心身についての悩みなどをカウンセリングする精神衛生相談を行っている。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止としてオンラインカウンセリングを実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/educational-info/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/educational-info/</a>
---